

脳死状態の人の体は温かく、心臓も鼓動している。
家族の言葉に涙を流し、子供なら成長する。
意識もあり、痛みも感じている。
そんな「生きている人」を、「死んだこと」にする。
「脳死」とは、移植に必要な臓器確保のために作られた、
不自然な死の基準に過ぎません。



温かい体に人の死を感じられますか？

東京都の中村有里ちゃん（当時2歳8カ月）は2005年12月、原因不明の急性脳症が元で脳死状態と診断されました。それでも、家族と病院関係者の深い愛情と手厚い看護の中、脳死状態で1年9カ月を生き、2007年9月に亡くなりました。

しかし、脳死状態になっても有里ちゃんの体は成長し続け、周囲の呼びかけや雰囲気

気に応え、涙を流すこともありました。

母・暁美さんはその実体験から、「娘の温かい体に死を感じるなどできず、ますます愛しく思いました。脳死は決して人の死ではありません。脳死状態の子供も、移植しかないと言われた子供も、その命の尊さは同じです。軽重をつけることなどできません」と、強く訴え続けています。



脳死状態の有里ちゃんを囲む中村さん一家（2006年5月）。半年ぶりに一時帰宅できた時の写真には、家族全員が自宅にそろうた喜びにあふれています（中村暁美さん提供）。「脳死」は、肉親にはとうてい受け入れ難い、臓器移植のための概念にすぎません。中村暁美さんの実体験と思いは、「長期脳死一娘、有里と生きた1年9カ月一」（岩波書店）に詳しくつづられています。

アメリカで、厳格な判定で「脳死」とされた青年が、その後に脳死でないことが確認され、臓器摘出が急きょ中止されるという出来事がありました。その青年は脳死と判定された状態でも医師の言葉を記憶しており、「死亡宣告された時は、本当に気が動転しました」と話しています（米NBCニュース、2008年3月23日）。

**脳死状態から生還した青年は語る（アメリカ）
「死亡宣告の時は、本当に気が動転しました」**

この事実は、脳死状態や植物状態になると人の意識はなくなるという従来の「定説」を明らかに覆すものです。

NON! DONOR



**脳死は
人の死では
ありません**

ノン・ドナーカードの携帯を！

知っていますか？



◎ **脳死は判定できない**

脳死状態になっても心臓が鼓動し、体温が保たれているのは、脳からのホルモン分泌があるからです。つまり、完全には脳の機能が失われていないのです。「脳死」という考え方は既に科学的に破綻しており、本来、脳死の正確な判定などできないのです。

◎ **ドナー（臓器提供者）には麻酔をかける**

麻酔をかけずにメスを入れると、急激な血圧上昇や脈拍数の増加、体動が起こり、臓器の摘出はできません。これらの反応はドナーが生きて、痛みを感じている可能性を示します。

◎ **脳死患者に意識はある**

さまざまな角度からの研究、検証により、脳死状態の人は、周囲からの呼びかけを意識できていても、それに対し肉体的に反応を返せない状態であると結論づける脳神経学者もいます。「脳死状態の人には意識がない」とは、科学的に実証されているわけではないのです。

◎ **ドナーには救命治療を尽くせない**

打撲や発熱で脳が大きなダメージを受けたとき、脳の腫れを防ぐため、体内の水分を減らす方向で救命治療が行われます。一方、臓器提供のためには、体内の水分を十分に保って摘出臓器を保護する処置がとられます。つまり、臓器提供を前提にすると、救命治療は打ち切らざるをえないのです。

◎ **「移植しかない」のではない**

たとえば近年、心臓移植を必要とする人への心臓弁形成術、ペースメーカー治療、バチスタ手術などが開発され、臓器移植に代わる治療として成功しています。

伝統的な死生観を大切に

医学的な死の基準は従来の「三徴候死」で

死の基準は、万人が納得できるものでなければなりません。世界には30を超える「脳死判定基準」があります。それほど「脳死」はあいまいな概念なのです。一方、日本には昔から、神道であれ仏教であれ、豊かな靈魂観や身体観に基づいてのちを大切に考える、文化的伝統がありました。体が冷たくなり、靈魂も離れ、もう決して生き返ることはなく、あの世へと旅立った。そういう状態を、人の死として受け入れてきました。医学的には、従来の三徴候死（呼吸停止、心臓停止、瞳孔散大）こそが、万人が納得できる死の基準といえるものです。

本当に臓器提供は「愛の行為、ですか？

臓器提供に同意していると危険！



「脳死状態からの臓器提供」拒否 意思表示カード

私は「脳死状態」からの臓器提供はしません

本人署名(自筆): _____

家族署名(自筆): _____

連絡先: _____ ※ご記入は油性ペンでご記入下さい

発行元 人類愛善会生命倫理問題対策会議
〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸1番地
<https://jinruiaizenkai.jp>

※同居家族のどなたか（配偶者、親権者）の署名をいただってください。なお、署名がなくても、カードの内容は有効です。

私たちは国に求めています

- ◎ドナー（臓器提供者）となる「脳死患者」の増加を期待するのではなく、そのような重篤患者を出さなくてすむよう、全国各地の医療施設における救命救急体制を充実・強化すること。
- ◎脳死患者の犠牲を前提とする移植医療に頼らず、今日成功例が数多く報告されている種々の代替医療の実用化を、一刻も早く総力を挙げて促進すること。

だから NON! DONOR CARD

ノン・ドナーカードは「脳死を人の死とは考えない。だから、脳死状態からの臓器提供はしません」と、明確に意思表示するためのカードです。万一あなたが「脳死状態」になったとき、「臓器提供しない」とはっきりと意思表示していなければ、改定臓器移植法によって、家族の承諾だけで臓器摘出されます。

保険証の記入欄などで、臓器提供に同意していたり、未表記のままだと大変危険です。あなたが事故や病気で「脳死状態」に陥る可能性が出てきたとき、臓器提供が優先されてしまい、十分な救命治療を受けられない可能性が高いからです。

このノン・ドナーカードは、改定臓器移植法に基づく「脳死判定は受けない」こと、「臓器提供もしない」ことを意思表示し、救命治療の継続を求めるためのカードです。常に携帯して下さい。携帯が難しい場合は、ご家族に保管場所を伝えておいて下さい。また、口頭でも「臓器提供しない」ことを伝えておいてください。

ノン・ドナーカードを無料で差し上げます。お問い合わせ・お申し込みは下記まで。

人類愛善会生命倫理問題対策会議

〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸1
人類愛善会: <https://jinruiaizenkai.jp>



人類愛善会は、宗教法人 大本の教祖 出口王仁三郎によって大正14年に創立された社会活動団体です。「人類愛善・万教同根」の理念のもと、人種・宗教の違いを超えて、世界平和の実現をめざす諸活動を国内外で進めています。その中でも生命倫理問題対策会議は特に、脳死臓器移植反対や死刑制度廃止を求める活動などを行っています。